

研究題目

## 中高連携を生かした教育活動の実践研究

— 併設型中高一貫教育校としての魅力づくり —

### 目 次

- 1 本校の概要
- 2 本校の教育目標
- 3 問題の所在
- 4 中高連携を生かした授業実践
  - (1) 学校設定教科を軸としたコミュニケーション指導
  - (2) 中学校理科における発展的な授業実践
  - (3) 中学生と高校生との協働による社会科授業
- 5 その他
  - (1) 学校行事
  - (2) 生徒会活動
  - (3) 部活動
- 6 まとめ

石川県立金沢錦丘高等学校 校長 宮本 雅春



## 1 本校の概要

本校は「弘毅篤学（大きな心と強い意志を持ち、学問に熱心であれ）」を校訓とし、明治32年創立の石川県第二中学校を前身とした、普通科の伝統校である。さらに、平成16年に県内初の併設型中高一貫校として県立金沢錦丘中学校が開校し、以後、中高一貫教育校の特色を活かして、生徒の自主・自立性や実践する力を引き出し、次代を担うリーダー的人材の育成に取り組んでいる。

現在のクラス規模は1年、2年クラスが8クラス、3年が9クラスであり、各学年とも、併設された中学校からそのまま入学した生徒（内進生）が約120名（3クラス）となっている。この内進生と、他の中学校から入学してくる生徒（外進生）については、原則、各学年ともクラスを分けて学級経営を行っているが、2年、3年と学年が進むにつれ、習熟度別授業が増えてくることから、実際のところ、様々な科目で内進生と外進生を融合した形で授業が実施されている。

## 2 本校の教育目標

### (1) 教育目標

高い志を育み、豊かな心と知性、健やかな身体を培い、地域や国家、国際社会の持続可能な発展に貢献できる人材を育成する。

### (2) 今年度の重点目標

今年度は、中学校とのつながりを生かして、本校生徒に対し、教科指導やその他様々な教育活動を通して「深い思考を伴ったコミュニケーション力」の伸長を図ることを全職員で共有し取り組んでいる。

## 3 問題の所在

上述のとおり本校は併設型の中高一貫教育校である。併設型とは、一体的に中高一貫教育を行う中等教育学校よりも緩やかな形態をもった、同一の設置者による中学校と高等学校を接続するシステムであり、その結果、6年一貫の教育を受ける生徒、及び、高校入試を経て入学し3年間の教育を受ける生徒が一定数混在することになる。文部科学省の調査によると、平成28年度の公立における中高一貫校教育校の設置状況について、中等教育校は31校（H25は29校）、併設型は87校（H25は74校）、連携型は80校（H25は81校）となっており、中高一貫教育校の中では、併設型のシステムを持つ学校がもっとも多い。

しかし、6年間の一体的な中高一貫教育を目指す中等教育学校と比べて、併設型のシステムでは、外進生と内進生が混在することから、学校として中高一貫の一体化がやや希薄となり、カリキュラム面では単位認定を含めた先取り学習も困難な状況となっている。中高連携のメリットを生かしていないのではないかと、同じ敷地に中学校と高等学校が併設されているだけではないかと揶揄されないためにも、中高連携のメリット

を改めて捉え直し、中学生と高校生双方に上質な学びを提供する必要があると考え、研究テーマを「中高連携を生かした教育活動の実践」とした。

併設型中高一貫教育校となって15年目を目前に控える今、現在行っている教育活動を改めて見直し、その有効性や課題を明らかにすることで、生徒にとって価値のある中高一貫のあり方について、考えていく。

## 4 中高連携を生かした授業実践

### (1) 学校設定教科を軸としたコミュニケーション指導

#### 【ねらい】

現代社会では、文章を読んだり、スピーチを聞いたりして論理的に相手の意見を分析し、自分の考えを理路整然と組み立て、世界へ発信できる能力が求められている。言語の違いに戸惑うことなく、外国の人と対等かつ心情豊かに交信できる言語運用能力や、自らの考えを論理的に表現できる能力を身につけることは、これからの国際社会を生き抜く上で大きな自信につながっていく。

そこで、本校では、中学校併設以来、中学と高校を貫く教科として、「コミュニケーション（中学コミュニケーション英語、高校ロジカルコミュニケーション探究・発展）」という学校設定教科を開設し、内進生は6年間、外進生は3年間、英語を用いたコミュニケーション力の育成に向けた学習を行っている。

#### 【各学年における到達目標】 \*教育課程表及び6年間を通じた年間指導計画は別紙参照

下記のとおり、生徒の発達段階に応じて、徐々に負荷のかかる形で到達目標が設定されている。

##### ○中学1年（コミュニケーション英語 1単位）

簡単な英語表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また楽しんで英語を学ぶことができる。

##### ○中学2年（コミュニケーション英語 1単位）

身近な話題について、簡単な英語表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。また楽しんで英語を学ぶことができる。

##### ○中学3年（コミュニケーション英語 1単位）

日常生活での話題や興味・関心のあることについて、簡単な英語表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また、主体的に英語を学ぼうとする態度を身につける。

##### ○高校1年（ロジカル・コミュニケーション探究 1単位）

日常生活での話題や自分の興味・関心のあることについて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また、主体的に英語を学ぼうとする態度を身につける。

##### ○高校2年（ロジカル・コミュニケーション発展 1単位）

日常生活での話題について、積極的にコミュニケーションを図ることができる。

また生涯にわたって英語を学ぼうとする態度を身につける。

○高校3年（ロジカル・コミュニケーション発展 1単位）

日常生活での幅広い内容について、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また生涯にわたって英語を学ぼうとする態度を身につける。

### 【ロジカル・コミュニケーション探究・発展の指導事例（高校1年生対象）】

ここでは、高校1年生を対象とした具体的な指導事例（年間計画）を紹介する。

	プロジェクト	授業の流れ	ねらい	活動形態	評価
4月	イントロダクション	Quick Response、Word Counter、質問カードなどを使ったペアでの会話活動を通して、英語を使って自分の言いたいことを相手に伝える練習を行う。	自分の言いたいことを相手に伝えることができる。	ペア	なし
4・5月	ロジカルスピーチ	与えられたトピックについて、自分の意見・理由・具体例など（Supporting Sentence）を論理的に相手に伝える方法を学ぶ。 ペアでの会話活動から個人でのエッセイライティングにつなげる。	自分の意見を論理的に相手に伝えることができる。	ペア 個人	エッセイライティング (ALT・JTE)
6月	『世界で活躍する日本人』	テキストNewsbreaksを読む。 読んだ内容に関連した『世界で活躍する日本人』というトピックで、グループによるプレゼンテーションを行う。  iPadでの情報収集、原稿作成、発表練習を事前に行う。	トピックに関して情報を収集し、その中から自分が伝えたい情報を選んで伝えることができる。	個人 グループ	プレゼンテーション (ALT)
7月	『2024年のオリンピック開催都市』	コミュニケーション英語 I with ALTで使用するテキストの内容に関連した『2024年のオリンピック開催都市』というトピックで、グループによるプレゼンテーションを行う。 発表はクラス全体で行う。	与えられた情報の中から長所を読み取り、それをわかりやすく伝えることができる。	個人 グループ	なし (自己評価)
9・10月	『おもてなしプロジェクト』	澤の屋旅館について書かれた英文を読んだり映像を見たりして、おもてなしとは何かを考える。  高級ホテルとリーズナブルだが伝統的な旅館との違いを比較し、なぜ後者が外国人に好評なのかを考える。  高級ホテルとリーズナブルだが伝統的な旅館のどちらを選ぶか(薦めるか)について、自分の意見を理由とともに発表する。	2つのものを比較し、それぞれの長所・短所を考慮した上で、自分の意見を（譲歩の表現も使いながら）伝えることができる。	個人 ペア 個人	スピーチ (ALT)

11月	スピーキングテスト	<p>[Part 1] 試験官が事前に連絡してある3つの質問の中から1つだけ選んで質問をする。</p> <p>[Part 2] 試験官が質問（事前連絡なし）をしてインタビュー形式で行う。</p> <p>それぞれの質問に対し、1分程度話す（やりとりを続ける）ことができるか、自分の意見を理由とともに答えることができるかを評価する。</p>	質問に対し、1分程度で自分の意見を理由とともに伝えることができる。	個人	スピーキングテスト (ALT・JTE)
12・1月	『バイオミメティクス』	<p>コミュニケーション英語Ⅰで使用するテキストの内容に関連した『バイオミメティクス』というトピックで、グループによるプレゼンを行う。</p> <p>iPadでの情報収集、原稿作成、発表練習を事前に行う。</p>	トピックに関して情報を収集し、事実（すでに開発されている製品について）を正確に伝えることができる。	グループ	プレゼンテーション (ALT)

\*他学年の指導事例については割愛した。

### 【今後の展望と課題】

英語の4技能のうち、特に「聞く」「話す」の指導については、現在、多くの高校教員が指導の難しさを感じているが、本校では、中高の接続を意識した6年間の指導計画が功を奏し「聞く」「話す」のスキルを高めている。6年間で向上する内進生の表現スキルを、外進生にどうに波及させるかという点についても、高校2～3年で設定する習熟度別クラスの中で、内進生と外進生を融合させて刺激を与え、生徒同士で切磋琢磨できる学習環境にあると言える。

課題としては、教員の指導スキルの継承が揚げられる。学校設定教科ゆえ、教科書や指導書等、明確な指導手引きは存在しない。教員の指導スキルが一段と高いレベルで求められる教科と言える。そのため、英語科教員は丁寧な協議を何回も重ねながら、生徒の実態にあわせた授業を構想している。教員の高齢化が進む中で、経験の少ない若手教員に対し、どのようにスキルを伝えていけるか、今後の課題である。

### (2) 中学校理科における発展的な授業実践

本校では、教科指導における中高の接続を円滑にするため、平成26年度より「発展的な内容」を加えた授業を中高の教員合同で開発・実践している。以下は、中学及び高校理科で学習する電気分野における授業のあり方を考究し、実践した報告書からの抜粋である。

なお、理科教育における中高連携の本研究は、平成29年度越馬徳治科学研究奨励賞（石川県）を受賞している。

### 【中高理科のつながりに関する課題】

高校物理の電気回路に関して、生徒は、部分的に並列になっているか、直列に

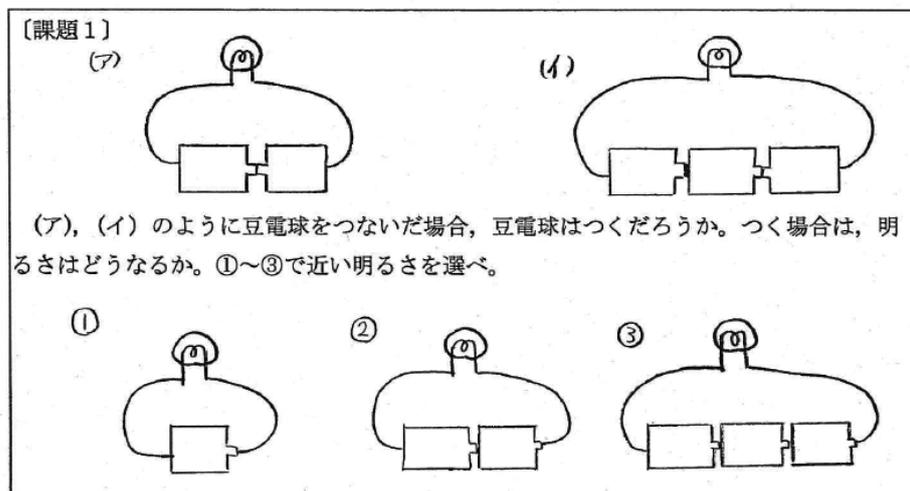
なっているか、回路の形状だけから判断し、それを手がかりに電圧や電流の物理量を求めようとする。結局、多くの生徒が回路の本質を見抜けないまま学習している状況にある。中高の理科教員で協議した結果、これは「電圧」の概念を形成する中学2年の理科学習に問題があるのでないかとの結論になった。

そこで、中学生なりに電位概念を形成して電圧を電位差として捉えなおしをさせたいと考えた。複雑な回路であっても電位概念を用いて、導線は電流が流れていても等電位であることを手掛かりとして、生徒が各素子の電位差（電圧）を求められるよう、中高教員協力して指導案を作成した。

### 【高校教員による中学校理科の発展的な授業（概要）】

第1時「電気の世界の高さをイメージしよう」

○展開1：乾電池の逆さつなぎの実験



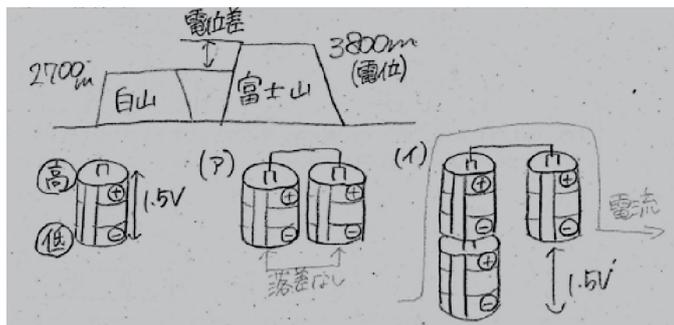
上の〔課題1〕について議論させた後、どう予想したかを挙手させたところ、(ア)に関しては、38名中24名（正解）が豆電球はつかないと答え、①と同じ明るさでつくは13名、②と同じは1名、③と同じは0名であった。

また、(イ)に関しては、38名中11名がつかないと答え、①と同じ明るさでつくは9名（正解）、②と同じは、17名で③と同じは1名であった。

○展開2：実験の事後指導

ここでは実験結果を基にして、既習の知識を整理しながら電位概念の形成をはかった。まず、生徒に、回路を水流モデルで示している図を教室正面のモニターで提示し、電気の世界の“高さ”を、高校では“電位”とよび、“高さの差（落差）”を“電位差”とよぶことを生徒に伝えた。電位と電位差の相異は高校生でも理解が難しいので、例え話として、白山や富士山の標高が電位に相当し、白山と富士山の標高差が電位差に相当すると説明をした。「“高さの差（落差）”つまり“電位差”は、すでに中学校で別の名前で登場しているのだけど、何かわかりますか？」と生

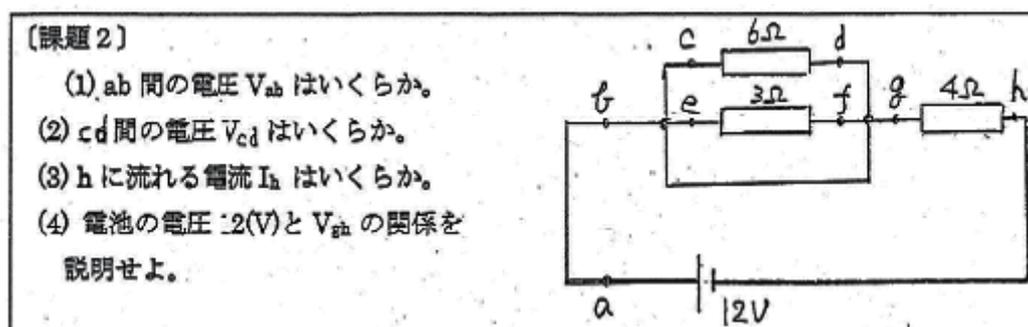
徒に問いかけたところ、何人かの生徒が「電圧？」と即答した。



(生徒のワークシートの板書メモ)

## 第2時「電気の世界の高さをイメージしよう」

### ○展開1：短絡している回路の考察



#### 【課題2】

- (1) ab 間の電圧  $V_{ab}$  はいくらか。
- (2) cd 間の電圧  $V_{cd}$  はいくらか。
- (3) h に流れる電流  $I_h$  はいくらか。
- (4) 電池の電圧 12(V) と  $V_{gh}$  の関係を説明せよ。

第2時では、短絡した部分を含む回路（課題2）で電気の世界の“高さ”をイメージし、回路全体の電圧の関係を考察できるようになることをねらいとした授業を展開した。

(2)に関しては予想が分かれた。半数以上が12V、4Vが6名、9Vが1名であり、0V（正解）は1名だけであった。直感的に12Vと考えた生徒が大半であったが、4Vと答えた生徒は、6Ωと3Ωの2つの抵抗が並列につながれているので、並列の合成抵抗を2Ωと求め、回路全体が2Ωと4Ωの抵抗が直列につながれていると解釈して、各抵抗と電圧が逆比になることを使って4Vを算出していた。

そこで、生徒が持っている資料集の水流モデルの図をモニターで提示し、抵抗を挟んでいない導線部分の“高さ”は変わらないこと、回路に分岐点があっても“高さ”は変わらないことを確認した。そして、電圧の関係を知りたいときには、導線の同じ“高さ”の部分の色塗りし、“高い”“低い”を調べるように促した。生徒はこの回路では2種類の色が必要であることに気づき、進んで色塗りをすることができた。

(3)(4)は誰も正解を予想できていなかったが、回路全体を2種類の色で塗りをする、4Ωの抵抗の両端の2色と12Vの電源の両端の2色が必ず



(モニターによる水流モデルの提示)

れも同じであるため  $4\ \Omega$  の抵抗の両端の電圧も  $12\text{V}$  になることに対して生徒は納得したようであった。オームの法則は十分に学習しているので、電圧がわかると電流の値もすぐに求められるようになった。

### 【今後の展望と課題】

中学校2年生に対して、「電気の世界の“高さ”として電位概念を形成し、電圧を電位差として捉えなおす」研究授業を行った結果、7割程度の生徒が「電気の世界の“高さ（落差）”をイメージできるようになり、通常においては中学校で取り扱わない複雑な回路について半数程度の生徒が「導線上は同じ“高さ”であること」を手掛かりにして抵抗の両端の電圧と流れる電流を求められるようになった。こうした「発展的な内容」の授業は中高の授業における接続を円滑に進めるための一助になりうると考えられる。

### (3) 中学生と高校生との協働による社会科授業（平成29年度実践を中心に）

#### 【経緯】

これまで高校教員が中学校へ赴き「発展的学習」を行う試みは各教科で行われていたが、中高の生徒たちが一緒になって行う授業は実施されていなかった。高校生が中学生の模範となってリードし、また中学生が自由にアイデアあふれる意見を言う、そのような相互に能力を伸ばせる機会を設定することができないか。そうした考えから、社会科では、中学生に対して行う「発展的学習」に加えて、高校生を交える形での合同学習を昨年試行した。

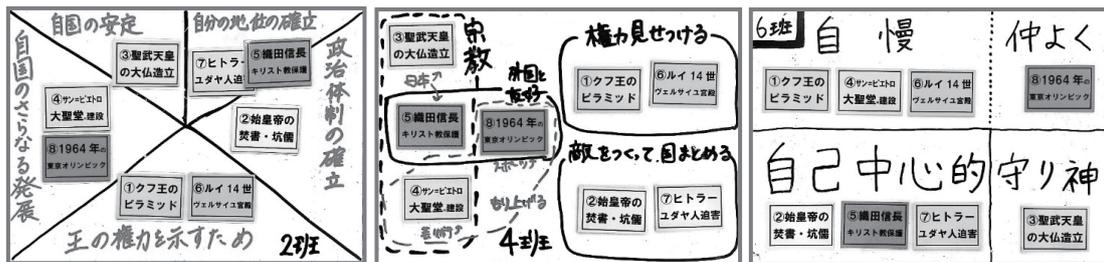
#### 【活動内容】

3月に、中学3年生と高校2年世界史B選択者を対象に2時間のコラボ授業を実施。内容は、世界各地の歴史上の指導者が政治の中で行ってきた「文化政策」が、どのようなねらいがあって行われたのかを考察するものである。

1回目の授業は、中高それぞれに分かれて、提示した次の8つの「文化的政策」について、指導者の政策意図を探り、共通するもの同士で分類してまとめ、発表するという活動を行った。

- ① クフ王のピラミッド造営
- ② 始皇帝の焚書・坑儒
- ③ 聖武天皇の大仏造立&国分寺建立
- ④ レオ10世のサン＝ピエトロ大聖堂建設
- ⑤ 織田信長のキリスト教保護
- ⑥ ルイ14世のヴェルサイユ宮殿造営
- ⑦ ヒトラーのユダヤ人迫害
- ⑧ 1964年の東京オリンピック





2回目の授業では、中学生の各グループに高校生が1～2人交じる形で中高のコラボ授業を行い、8つの「文化政策」すべてに共通する政策意図を考察して、全体に発表するという活動を行った。

This block contains several hand-drawn notes and a photograph:

- Top Left:** A starburst shape containing the character '力' (Power) and the name 'ちいら'.
- Top Middle:** The text 'ちやほや されたい...!!'.
- Top Right:** The text '新たな一歩 よよく 国の安定'.
- Bottom Left:** The text '国の方針を 建物や政策で 示そうとした I'.
- Bottom Middle:** A flowchart showing '軸をつくる C' leading to '人が集まる' leading to '国の統一!!'.
- Bottom Right:** The text '全ては国の 発展のため D'.
- Right Side:** A black and white photograph showing a group of students sitting around a table, engaged in a discussion or activity.

### 【生徒の反応】

1回目の授業では、多くのグループに共通する表現もあれば、同じことを独自の表現で表している場合もあり、中高合計44グループどれをとっても同じ発表内容のものはなかった。バリエーションの豊かさがこの時間の思考の深まりを表しているようで、面白い1時間目になった。

2回目の授業では、初めての中高合同ということもあり、緊張してなかなか話せない部分もあったが、少しずつほぐれていき、最終的には各グループともまとめにたどり着いた。高校生は司会として中学生から意見を引き出したり拾ったりするのに苦戦していた。中学生たちは、思考を統合するこの課題は難しく議論しつつ頭を悩ませていた。以下は生徒の感想の一部である。

**中学生** ・ 高校生と一緒に初めて授業をしてみて、高校生は資料集などを見せながら説明しているのがさすがだと思います。班全員で意見を出し合って考えを1つにまとめられたのが良かったです。中学校よりも難しい内容でしたが、深く考えられたと思います。

・ 指導者のした内容はぜんぜん違うけど、目的は全て同じなのだと分かりました。中学生の間で飛び交っている意見を、先輩がうまくまとめて1つの

意見にしてくれて、すごいなと思いました。高校生になったら、あんなふうにまとめられるようになりたいです。

- 今までの授業では、1つの活動や政策についてだけ考えるだけだったけれど、高校生になったら習ったことすべてを使い考える必要があると分かりました。共通点を探すためには、どの政策も詳しく知っていなければならないので、高校はすごく大変なのだと思います。しかし、高校生と一緒にすることで、楽しみながら新しい知識や物の見方を教えてもらいながらできたので、本当に有意義な時間でした。

#### 高校生

- 中学生と交流をして、自分の力不足さをすごく感じた。けど、話し合いで「どう思う？」と聞くと自分の意見をたくさん話してくれた中学生のおかげでうまく1つの考えにまとまったので良かったです。本当は中学生といたくないと思っていたけど、初々しさとか感じられてとても良い機会だったと感じました。

- 中学生は、頭の固い私たちとは違って考え方が柔軟で、積極的に考えようとしているのが伝わってきて楽しかった。私のグループの中学生は、話しかけたらみんなが意見を言ってくれて、たくさん意見が出てきて話し合いが活発だったと思う。歴史的な事実だけでなく自分もやってみたいとか、自分の気持ちも込めて考えていて、私たちも取り入れるべきだと思った。一緒に授業ができて良かった。また機会があればぜひやりたい。

- 今回、中学生と一緒に考える貴重な体験をすることができたと思います。中学生の考えは知識が不足していると感じさせない程に柔軟な考えで、多くの意見を提示してくれてとても頼もしく、また自分の固まった脳に新しい刺激をたくさん吸収することができて良かったです。勉強は考えることが一番大切なことだと改めて分かりました。

#### 【今後の展望と課題】

課題としては、このような機会が中学3年間の中で1回しか確保できていないということである。

今回は中学3年生を対象に行ったが、1年間の中で複数回、もしくは中学1・2年生の間にも実施していけるとより良いものになっていくと思われる。

さらに、今回は、高校の教員が授業を実施したが、中学の教員が高校生向けに実施するのも良いのではないかと考えている。現状では、まだまだ一部の教員が関わっているにすぎないため、これを拡大して、組織的に行えるようにする方法を模

索する必要がある。

## 5 その他

### (1) 学校行事

生徒に中高の連帯意識を持たせられるよう、本校では毎年、様々な中高合同の行事を行っており、さらにはその改善を進めている。以下は、近年、改善に取り組んだ内容の一例である。

#### 【紫錦祭（学園祭 8月下旬実施）】

以前は、中学生は高校生が企画するイベントの「お客」に過ぎなかったが、近年、紫錦祭オープニングのブラスバンド演奏を中高合同で行ったり、昨年からは中学と高校の生徒会が協力して、中学校各クラスで7月に実施した合唱コンクールの歌を高校生に対して披露する機会を作っている。

後日、高校生にアンケートを実施したところ、中高の連携意識が高まったと感じた生徒の割合が「とても感じた」「感じた」の項目で74%となった。同じ項目の教職員のアンケート結果でも、83%の肯定的評価を得た。記述式の感想でも、「中学の合唱が良かった。自分の中学時代を思い出した。」「去年より中学全体が参加している感じがした。」「今年の紫錦祭がきっかけで知り合った中学の子と今でも交流が続いている。」などの高評価の声があった。

#### 【校内陸上競技大会（5月実施）】

体格が大きく異なる中学生と高校生合同での陸上記録会の実施運営は、予想以上に困難を伴っている。その中で、中3生と高1生でリレー種目を競わせたり、「錦丘体操（体育の毎授業で行っている錦丘中高オリジナルの準備体操）」を中高の全生徒で行ったりするなど工夫を行っている。

だが、およそ1,000名の高校生に比べ、360名程度の少人数である中学生の満足度はやや低くなってしまいう傾向があり、学年の縦割り種目を設定する等、さらなる工夫を考えていきたい。

### (2) 生徒会活動

中高の生徒会執行部合同で、募金活動を5月に、朝の挨拶運動を6月に、さらには、地域清掃を月に1回実施している。この取組では、中学生の屈託のない表情や元気なかけ声が、高校生や地域の方々にとって強い刺激となっているようである。また、中学生も、高校生や地域の方々自分たちに反応を返してくれることに自信を感じていた。中学生と高校生、そして地域の方々による連帯意識が見られた点、有効であった。

課題としては、高校生徒会の中心生徒が、濃密な中学3年間を過ごした仲間意識

をもつ内進生になる傾向が高く、外進生出身が少ないという点があげられる。本校の生徒会活動は他校に比しても、きわめて積極的であるが、外進生が加わりやすい環境作りという観点で裾野を広げる方法も検討する必要があると思われる。

### (3) 部活動

本校では、中高の合同練習や中学3年生の高校部活動を参加を通して、中学から高校への円滑な移行と競技力の強化を図っている。具体的には、卓球、弓道、サッカー、男子バスケット、女子バレー、女子ハンドボール、女子バドミントン、吹奏楽、英語研究、美術で合同練習を実施しており、これに、陸上競技と野球を加えた部が、12月から中学3年生の部活動参加を受け入れている。

もちろん、特に運動部活動など体格差や競技の特性などで簡単には合同練習できないものもあり、活動場所の確保や専門指導者による継続的な指導など、課題となる点も多いが、現在のところ、中高一貫を生かして強化する部を弓道部と吹奏楽部の2つに絞った形で指定し、生徒や教員に負担のかからない形で円滑な運営を行っている。

## 6 まとめ

本稿における実践研究の肝は、「4」の「中高連携を生かした授業実践」にある。

4の(1)「学校設定教科を軸としたコミュニケーション指導」では、6年間の発達段階にあわせた指導計画の必要性を、(2)の「中学理科における発展的な授業実践」では、教科における中高接続の中で、生徒が実際に抱える悩みの解消に向け、中高の教員が一丸となって思考し実践する重要性を改めて認識することができた。加えて(3)の「中学生と高校生との協働による社会科授業」では、中学生と高校生のコラボ授業という斬新な発想で授業を展開した。このチャレンジに懸念を抱く教員もいたが、生徒からは肯定的な感想が多く聞かれたことから、今後は、他教科でも少しずつ広げていきたい。また、「5」の「その他」の教育活動においても、現状に満足せずに工夫・改善することで、中高の一体化を生み出せることが分かった。

以上から、中高連携の取組を行うポイントは、教員の共通理解と創意工夫であると言えよう。この2点について、教員が常に意識するような環境を作らないと高い教育的効果はうかがえない。

併設型のシステムを有する本校の課題を考えた場合、まず1点目に「中学校と高校生の双方にとって魅力ある中高一貫校となるためにはどのような取組が望まれるのか」を明確にする必要がある。特に授業を考えるにあたって、高等学校の立場で言えば、中学校を知り尽くした教員がすぐ近くにおいて、気軽に相談できる点は最大のメリットであろう。高校教育の改善のため、中学校の教員を巻き込み、さらには中学生をも巻き込んでいく姿勢は、今後も維持していく。

2点目の課題としては、高等学校の立場で「6年一貫教育を行う内進生と他中学校から入学する外進生の双方がメリットを実感する中高連携のあり方」を目指す必要があるということである。6年一貫教育ができるという呼びかけのもと中学校から入学した内進生の指導を重視するのか、高校から入学した外進生を含めた学校全体としての指導を重視するのか、このバランスをとる舵取りこそが、併設型中高一貫の宿命であり、そのためのキーワードは、おそらくは「切磋琢磨」である。内進生と外進生、双方を視野に入れた指導のあり方を多角的に考えていくことが大切である。

今年度中の実施に向けて、現在、次の2点を検討している。1点目は、総合的な学習の時間を活用した探究活動の工夫である。例えば、発表の場面で中学生と高校生が交わる機会を作れないか、内進生と外進生が融合して、互いに切磋琢磨する機会を作れないか、検討チームを設けて協議を重ねている。2点目は、中3生の冬期補習を行う際、進路が決まっている高3生が中3生にサポートする機会をつくるということである。双方の立場の生徒にメリットがあるものと考えている。

いずれにせよ、円滑で効果的な中高一貫教育を推進していくためには、実効性のある、継続可能な方策を立てていく必要がある。それによって、中学校に入学してくる生徒の能力を6年間かけて最大に伸ばすとともに、内進生と外進生が状況に応じて融合し、切磋琢磨する環境作りへとつなげ、中学と高校双方にとって魅力的な学校になるよう、これからも取り組んで参りたい。

平成 28 年度以降入学生に適用する教育課程表

教科	科目	標準 単位	1年	2年		3年		単位数の合計			
				文系	理系	文系	理系	科目	文系	理系	
国語	国語総合	4	5					5	17	14	
	現代文B	4		2	2	3	2	4・5			
	古典A	2				2		0・2			
	古典B	4		3	2	2	3	5			
地理歴史	世界史A	2		2	2			0・2	9・11 ・12・14	8	
	世界史B	4		4				0・4			
	日本史B	4		2	4	3		0・4・6			
	地理A	2		2				0・2			
	地理B	4			※8	3		0・6			
	○世界史特講	3~6					3	0・3			
	○世界史演習	2~4					③	0・3			
	○日本史特講	3~6			4		3	※6			0・3
○日本史演習	2~4					③	0・3				
公民	現代社会	2	2					2	2・5 ・7	2	
	政治・経済	2		2				0・2			
	○公民特講	3					3	0・3			
数 学	数学I	3	3					3	13・19	20	
	数学II	4	2	2	2			4			
	数学III	5			2		4	0・6			
	数学A	2	2					2			
	数学B	2		2	2			2			
	○理系数学特講	2~4						3			0・3
	○理系数学演習	4~6			2			4			0・6
○文系数学特講	2~8			2		③+③		0・2・8			
理 科	物理基礎	2			2			0・2	10	20	
	物理	4			2		5	0・7			
	化学基礎	2	2					2			
	化学	4			3		4	0・7			
	生物基礎	2		2	2			2			
	生物	4			2		4	5			0・4・7
	地学基礎	2		2							0・2
	地学	4					4				0・4
	○文系化学演習	2~4					2				0・2
	○文系生物演習	2~4					2	4			0・2
○文系地学演習	2~4					2		0・2			
保健 体育	体育	7~8	3	2	2	3	3	8	8	8	
芸 術	保健	2	1	1	1			2	2	2	
	音楽I	2		2				0・2	2	2	
	美術I	2		2				0・2			
書道I	2		2				0・2				
外国語	コミュニケーション英語I	3	4					4	18・21	16	
	コミュニケーション英語II	4		4	3			3・4			
	コミュニケーション英語III	4				4	3	3・4			
	英語表現I	2	2					2			
	英語表現II	4		2	2	2	2	4			
○実践演習英語	2~4					③		0・3			
家庭 情報	家庭基礎	2	2					2	2	2	
社会と情報	2	2						2	2	2	
共通科目単位数計			32	32	32	32	32	96	96		
O コミュニケーション	○L C 探究	1	1					1	3	3	
	○L C 発展	2		1	1	1	1	2			
総合的な学習の 時間	Logical & Critical Thinking	3~6	1	1	1	1	1		3	3	
ホームルーム活動			1	1	1	1	1		3	3	
週当たりの単位数合計			35	35	35	35	35	105	105		

- ・2年文系の地理歴史・公民「※8」は「世界史B」(4単位)、「日本史B」(4単位)、「世界史A」(2単位)または「地理A」(2単位)から1科目と「政治・経済」(2単位) (4単位)から8単位を選択する。ただし、「世界史A」(2単位)または「世界史B」(4単位)のいずれか1科目のみを必ず選択する。
- ・3年文系の地理歴史・公民「※6」は「世界史特講」(3単位)、「日本史特講」(3単位)、「公民特講」(3単位)から6単位を選択する。ただし、「世界史特講」(3単位)は2年次に「世界史B」を、「日本史特講」(3単位)は、2年次に「日本史B」を履修した者がそれぞれ選択できる。
- ・理系の地理歴史「B」科目は、2・3年継続して同一科目を計6単位履修する。
- ・数学において、1年は「数学I」・「数学A」の後に「数学II」、2年文系は「数学II」・「数学B」の後に「文系数学特講」、2年理系は「数学II」・「数学B」の後に「数学III」または「理系数学演習」を履修する。
- ・3年理系の数学は、2年次「数学III」を履修した者は、「数学III」(4単位)を、2年次「理系数学演習」を履修した者は「理系数学演習」(4単位)を履修する。
- ・2年理系の理科において、「物理」を選択する者は、「物理基礎」の後に「物理」、「生物」を選択する者は、「生物基礎」の後に「生物」を履修する。
- ・3年文系の理科は、「生物」(4単位)、「地学」(4単位)、「文系化学演習」(2単位)、「文系生物演習」(2単位)、「文系地学演習」(2単位)から2科目(4単位)から4単位履修する。
- ・3年理系の理科は、2年次「物理」を履修した者は「物理」(5単位)を、2年次「生物」を履修した者は「生物」(5単位)を履修する。
- ・3年文系の③および③は、「文系数学特講」(計6単位)または、「世界史演習」・「日本史演習」(3単位)から1科目と実践演習英語(3単位) (計6単位)を選択する。ただし、「世界史演習」は3年次「世界史特講」を「日本史演習」は3年次「日本史特講」を履修する者が選択できる。

学年/重点活動形態	項目	A(一方通行)	B(インタビュー形式)	C(双方向)
中学1年	実施月	4～6月	7～12月	1～3月
	トピック例	英語で何て言うの? I 英語で何て言うの? II 学校生活	体調、気分 夏休みの思い出 食べ物	家庭生活 スキットコンテンツ 夢と職業
	Goal	・身の回りにある様々なものの語彙に関心をもって、英語で正しく発音することができる。(理) ・ペットや部活動、好きな教科に関する話題にして、英語による対話そのものを楽しみながら話すことができる。(表) ・通学に関することや休み時間の過ごし方などを話題にして、自然な速さで話すことができる。(表)	・相手の体調に応じて、気持ちを込めて、同情した話し方ができる。(表) ・相手の好きなことに関して、話そうとすることを聞き手に正確に伝えることができる。(表) ・食事に関する基本的な語句や表現に関心をもち、食卓での会話を話題に自分の気持ちが相手に伝わるような話し方ができる。(表) ・電話の会話において、聞かれたことに対する対して、適切に応答できる。	・今日の一日のふり返りを話題に話す中で、明瞭な発音で聞き手にわかりやすく伝えることができる。(表) ・豊かな表現やジェスチャーをともなって、話そうとすることを聞き手にわかりやすく伝えることができる。(表) ・将来の職業について、自分の考えを交えながら、聞き手に伝わりやすい適切な声の大きさや速さで話すことができる。(表)
	活動内容	身の回りになるもの、ペット、部活動、教科、通学に関して、会話を到達度に合わせてアレンジし、発表する。	体調、相手の好きなこと、食事、電話での会話について、到達度に合わせてアレンジし、発表する。	一日の生活をふり返ったり、将来の夢についてなど、会話を到達度に合わせてアレンジし、発表する。
中学2年	実施月	4、5月	6～9月	10～1月
	トピック例	自分のこと 日常生活	私の好きなもの 道案内と交通 体調(気分、病院、薬)	食べ物 図形、数量表現 買い物
	Goal	・自分の大切なもの(好きなもの、得意なこと)を取り上げ、Show & Tell形式で、聞き手にわかりやすい適切な速さと声の大きさを話することができる。(表) ・登校時に教室で交わされる会話において、通学途中の様子について伝えたい情報を正確に話することができる。(表)	・自分の好きなものについて、聞き手にわかりやすく伝えることができる。また、質問に対して適切に答えることができる。(表) ・適切な語句を選択し、建物間の位置関係など伝えたい情報を正確に話することができる。(表) ・相手の発話に対してジェスチャーなど非言語的なコミュニケーション手段を用いて、適切に応答することができる。(表)	・食事を話題にした基本的な表現を使って、大切な情報を表情豊かに、はっきりと話すことができる。(表) ・数量表現(計算、単位)を含んだ内容に関して、聞かれたことに対して素早く適切に応じることができる。(表) ・電話でよく使われる表現を活用して、ペアで対話を行うことができる。 ・家庭での生活を話題に、ジェスチャーや語調に変化をつけながら話することができる。(表)
	活動内容	自分の大切なもの、通学の様子など、到達度に合わせた会話をアレンジし、発表する。	自分の好きなもの、建物間の位置関係について到達度に合わせた会話をアレンジし、発表する。	食事、数量表現、家庭での生活について到達度に合わせた会話をアレンジし、発表する。
中学3年	実施月	4、5月	6、7月	9～11月
	トピック例	自分のこと 学校生活	身近な地域 商品の紹介	体調・健康 夏に読んだ本
	Goal	・自分の買った電化製品の一つを取り上げ、その良さを理由も含めながら、聞き手に正確に話することができる。(表) ・学校での日常的な話題(転入生、授業等)に関して、伝えたいポイントを整理して話することができる。(表)	・身近な地域のお店についての会話を場面ふさわしい声の大きさや速さで話することができる。(表) ・聞き手が、敬くなるように声のトーンや速さ、強調など話し方を工夫して話することができる。(表)	・薬局で正確に症状を述べたり、またそれに対して正しく反応しながら、指示することができる。(表) ・お勤めする本の内容について、相手にわかりやすく、かつ簡潔に話することができる。(表) ・自分が読んだ本について、その内容や読後の感想をわかりやすく説明することができる。(表)
	活動内容	電化製品、学校生活一般についての会話について、到達度に合わせてアレンジし、発表する。	身近な地域のお店、商品の紹介について、会話を到達度に合わせてアレンジし、発表する。	薬局での会話、お勤めの本の会話について、到達度に合わせたアレンジし、発表する。
高校1年	実施月	4月	5、6月	7～11月
	トピック例	自分のこと 私の好きなもの	論理的な文章 日本の観光地	澤の屋旅館 高級ホテル デジタルデトックス
	Goal	・クイックレスポンスを意識して、自分の言いたいことを理由を添えて相手に伝えようとする。(関)	・自分の意見を論理的に筋道を立てて相手に伝えることができる。(表) ・トピックに関して情報を収集し、その中から自分が伝えたい情報を選んで伝えることができる。(表)	・2つのものを比較し、それぞれの長所・短所を考慮した上で、自分の意見を(散歩の表現も使いながら)伝えることができる。(表) ・質問に対し、自分の意見を理由とともに伝えることができる。(表)
	活動内容	①与えられたトピックについて、理由をつけて自分の意見を話す。 ②クイックレスポンスを意識してペアで会話活動をする。	①論理的に話す・書くための型を学ぶ。 ②サポートセンテンスを書く練習を行う。 ③短時間で日本の観光地に関するプレゼンを行う。 ④iPadで発表用の写真やデータを検索し、その情報を活用しながらクラスで発表する。	・与えられた情報の中から長所を読み取り、それをわかりやすく伝えることができる。 ①澤の屋旅館について書かれた英文を読み、真のおもてなしとは何かを考える。 ②高級ホテルとリーズナブルな旅館との違いを比較し、なぜ外国人に日本の伝統的な旅館が好評なのかを考える。 ③自分の意見を発表する。 ④スピーキングテストII ⑤ホテルと旅館の選択について、自分の意見を述べる。 ⑥欧米のデジタルデトックスという考え方についての英文を読む。 ⑦自分の立場に置き換えて、デジタルデトックスは自分にとって必要か、また現代の日本の高校生にとって必要かについてペアで意見を交換する。
高校2年	実施月		4、5月	6、7月
	トピック例		絶滅危惧種	絶滅危惧種
	Goal		・事実を正確に伝え、伝えることができる。(理) ・写真等を使用して事実を正確に伝えることができる。(表)	・自分の思いや意見を交えて事実を正確に伝えることができる。 ・知りえた情報をもとに、説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。 ・知りえた情報をもとに、説得力のある論理的な文章構成を意識して書くことができる。
	活動内容		①絶滅の危機にあるコアラについて、その原因と保護に向けての取り組みについての文献を読む。 ②提示された絶滅危惧種より一種類を選び、その動物の写真を示して発表 (iPadを使用して情報収集) <発表に盛り込む内容> ・ place to live ・ food ・ problem(s) ・ solution(s)	①提示された絶滅危惧種より一種類を選び、その動物の写真を示して発表する。 ②エッセイライティング 「絶滅危惧種について、現状と対策」というテーマで与えられた語数制限でエッセイを書く。
高校3年	実施月			4、5月
	トピック例			人生における後悔
	Goal			・事実を正確に読み取ることができる。(理) ・自分の考えと相手の考えを比較しながら考えを論理的にまとめることができる。(表)
	活動内容			①英語文献を読む。 題材: 終末期医療に携わる看護師が余命わずかな患者に聞いた「人生における後悔」 ②自分ほどの後悔に共感するのか、ペアで意見交換をする。

D (対教師OR対情報源)	E (ディスカッション)	F (ディベート)	学年到達目標
			簡単な英語表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。また楽しんで英語を学ぶことができる。
2、3月 夢と職業 プレゼンテーション			身近な話題について、簡単な英語表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。また楽しんで英語を学ぶことができる。
・自分の思いや考えを含めながら、文法に従って正しく話すことができる。(表) ・話す際の正しい強制、区切りなどに心がけながら、相手の理解を確認しながら、それに応じて話すことができる。(表)			
夢と職業について到達度に合わせて会話をアレンジし、発表する。			
12、1月 食べ物 建物 電話	2、3月 中学校生活で学んだこと 卒業		日常生活での話題や興味・関心のあることについて、簡単な英語表現を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる。また主体的に英語を学ぼうとする態度を身につける。
・相手に伝わりやすいように、わかりにくい語はゆっくり話すなど工夫しながら伝えることができる。(表) ・電話の場面で伝言を頼んだり受けたりする会話を正確にかつ滑らかに行うことができる。(表)	・自らの体験や夢に触れながら、ジェスチャーや語調の変化にも配慮できる余裕をもち、わかりやすく話すことができる。(表) ・3年間を思い出しながら感情を込めて、自分の成長について話すことができる。(表)		
食べ物、建物、電話での会話などを到達度に合わせてアレンジし、発表する。	中学校生活で学んだことや卒業に向けて自分の思いを表現する会話をアレンジし、発表する。		
12、1月 効果的な伝達 開発された製品	2、3月 環境問題 自分が危惧している環境問題		日常生活での話題や自分の興味・関心のあることについて、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また主体的に英語を学ぼうとする態度を身につける。
・トピックに関して情報を収集し、事実(すでに開発されている製品について)を正確に伝えることができる。(表)	・トピックに関して情報を収集し、事実を正確に伝えることができる。(表) ・オーディエンス・エンゲージメントを意識してプレゼンテーションを行うことができる。(表)		
①自分の発表を聴衆に効果的に伝える方法について学ぶ。 ②質問やクイズを発表中に導入する練習を行う。 ③発表を行う。	①スピーキングテスト ・環境問題について英文を読み、自分の意見を述べる。またプレゼンを試験官に対して行い、その中にオーディエンスエンゲージメントを含める。 ②自分が危惧している環境問題について発表を行う。		
9～11月 スマホの効果的な使用法 監視カメラは必要か 卵子凍結	12、1月 自分が関心がある社会問題	2、3月 自分が関心がある社会問題	日常生活での話題について、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また生涯に渡って英語を学ぼうとする態度を身につける。
・データを分析し、その内容を適切な英語(the number of「など」を使って表現することができる。(表) ・2つの立場を考慮し、譲歩の表現を使いながら、自分の考えを主張することができる。(表) ・必要な情報を収集し、それをポスターにまとめて発表することができる。(表)	・必要な情報を収集し、それをまとめてグループで意見交換したり、発表したりすることができる。(表) ・データを活用し、引用しながら説得力のある論理構成を意識し表現することができる。(表)	・必要な情報を収集し、それをまとめてルールにのっとり、同じ意見をもった友人と協力して意見交換、意見発表することができる。(表) ・データを活用し、引用しながら説得力のある論理構成を意識し表現することができる。(表)	
①資料を分析し、意見交換をする。 題材：錦丘生の携帯電話使用時間・目的についての学年比較 ②スマートフォンの良い使用例・悪い使用例について情報を収集し、意見交換を行う。 ③エッセイライティング 「スマートフォンの効果的な使用方法について」 ④監視カメラに関する英語文献を読み、良い点と悪い点を述べる。 ⑤エッセイライティング 「監視カメラは現代社会には必要か」 ⑥卵子凍結～少子化対策の一例～に関する英語文献を読む。 ⑦「出生率を上げるために行われている取り組み」について関連情報を収集する。 ⑧収集した情報をもとに、ポスターを作り、自分の意見を述べる。	①自分が関心のある社会問題について情報を収集する。 ②ALTまたはJTEに説明する(PT) ・どんな問題に関心があるのか ・その理由は何か	①収集した情報をもとに、ポスターを作り、自分の意見を述べる。 ②ポスターを用いて、プレゼンをする。特に、社会問題についての自分の考えを述べることに力点を置く。 <発表に盛り込む内容> ・A present situation (fact) ・Cause / Reason / Background ・Solution (policy) ・Your opinion	
6、7月 どの後悔に共感するか 部活動	9、10月 世界で起きている社会現象 日本のアニメ 有言実行	11～3月 有言実行と不言実行	日常生活での幅広い内容について、積極的にコミュニケーションを図ることができる。また生涯に渡って英語を学ぼうとする態度を身につける。
・事実を正確に読み取り、自分の考えと比較することができる。(表) ・エッセイにおいて、比較・分析・考察の部分の構成を考え、まとまりのよい文章を書くことができる。(分析・比較)(表)	・「世界の中の日本」という視点で日本を見つめ、その背景に何があるのかを考え、グループ内で自分の意見や事実について述べる。(表) ・エッセイにおいて、比較・分析・考察の部分、より客観性を持たせ、説得力を増した構成を理解できる。(譲歩→逆接→主張の流れで)(理)	・書かれている情報、聞き取った情報を整理して、比較・分析・考察の部分、より客観性を持たせ、説得力を増した構成で表現できる。 ・譲歩→逆接→主張の流れを意識して書くことができる。	
①エッセイライティング 「どの後悔に共感するか」というテーマで与えられた語数制限に従って書く。 ②エッセイライティング 高校の部活について、中学とは異なる新しい部活に入るの良いか、中学から続けているものと同じ部活に入るの良いかを書く。(WT)	①世界で起きている社会現象について、自分の意見を述べる。その際、自分と同じ意見の友人と協力して意見を述べ合う。 テーマ：日本のアニメが世界の注目を浴びていることについて、その理由は何か ②エッセイライティング 自分の好きなアニメ作品またはアニメキャラクターは何か、どんな部分に共感を覚えるのかを明らかにして好きな理由を述べる。 ③TEDのプレゼンテーションを見て「有言実行」のデメリットについて、プレゼンターの主張を理解する。 ④毎日新聞社説を読み「有言実行」を心がけることの良さについて理解する。	①「有言実行」と「不言実行」のメリットとデメリットについて意見を交換する。(譲歩・逆接の表現を用いて) ②書かれている情報や聞き取った情報をもとに引用したり、比較したりしながら、ルールに従ってチームで意見を述べ合う。 ③エッセイライティング 「有言実行か不言実行か」というテーマで、与えられた語数制限に従って書く。	